

アフターコロナ「毎日出社」53% 理想の出社「週3日以上」が63%

エン・ジャパンが運営する総合求人サイト『エン転職』上で、ユーザーを対象に実施した「アフターコロナの働き方についてのアンケート調査」結果（有効回答数7783人）によると、去る5月8日に新型コロナウイルスが5類に移行し、オフィス回帰が進む現在の会社への出社頻度は、「毎日出社」は53%、「出社していない（テレワーク）」は19%、出社とテレワークを掛け合わせて週何日か出社する「ハイブリッドワーク」は19%だった。

業種別でみると、「毎日出社」の比率が最も高いのは「インフラ」（65%）、最も低いのは「IT・通信・インターネット」（37%）で、28ポイントの開きがあった。また、5類化に伴う出社頻度の変化については、「出社が増えた」との回答が10%だった。出社頻度の増加に対する所感は、「良いと思う」が56%で、半数以上が好意的な受け止めであることが分かった。

出社が増えてよかったこと（複数回答）については、「雑談など、コミュニケーション不足が解消された」が45%で最多、次いで「オンオフの切替えがしやすくなった」（25%）、「体力が付いた」（18%）などが挙げられた。理想の出社頻度については、「週3日以上」の希望者が63%（毎日出社、週4日出社、週3日出社：それぞれ21%）。年代別でみると、週3日以上希望者が多いことに違いはなかったが、「毎日出社」の回答割合に違いが見られ、40代以上の26%に対し、20代は14%、30代は16%と2割を下回った。

国の借金、約1276兆円と過去最大 国民1人当たり約1025万円に増加

財務省が公表した、2023年6月末時点での国債や借入金などを合計した「国の借金」は、過去最大だった2023年3月末から5兆8165億円増えて1276兆3155億円となった。2023年度の税込総額は約69兆円と5年連続で過去最高を更新する見通しだが、高齢化による社会保障費の膨張に加え、新型コロナ対策や物価高対応の財政支出などがあるため、約35.6兆円の新規国債発行で歳入不足を賄う予定だ。国の借金は膨張が止まらない。

6月末の国の借金は、3月末に比べ、国債は▲約2.3兆円の約1134.1兆円で全体の約89%を占め、うち普通国債（建設国債、赤字国債等）は▲約0.5兆円の約1026.6兆円と過去最大だった3月末からは微減となった。その内訳は、長期国債（10年以上）が約7.7兆円増の約785.9兆円、中期国債（2年から5年）も約3.4兆円増の約186.9兆円と増加したが、短期国債（1年以下）が▲約11.5兆円の約53.8兆円と減少して全体を押し下げた。

この「国の借金」約1276.3兆円は、2023年度一般会計予算の歳出総額114兆3812億円の約11倍、同年度税収見込み額69兆4400億円の約18.4倍にあたる。年収500万円のサラリーマンが9200万円の借金を抱えている勘定だ。

また、わが国の今年7月1日時点での推計人口1億2456万人（総務省統計局の概算値）で割ると、国民1人当たりの借金は、2023年3月末時点の約1021万円から約1025万円に増加している。